

資料 4

がん対策事業の推進状況

令和7年度 がん対策事業の推進状況について

1 10月1日「ピンクリボンデーの普及啓発」

(大分県地域保健協議会、大分市中央町商店街振興組合、(株)サンリオエンターテイメント、社会医療法人三愛会、大分市・杵築市との協働事業)

10月1日の「ピンクリボンデー」に合わせて、県内各所ををピンク色にライトアップ。

・ライトアップ箇所

①セントポルタ中央町（アーケード内装飾灯）

令和7年9月22日～10月13日（22日間）

②大分県立美術館（OPAM西側）（大分県地域保健協議会）

令和7年9月24日～10月7日（14日間）

③OASISひろば21（竹町側2階入口）（大分県地域保健協議会）

令和7年9月24日～10月7日（14日間）

④ハーモニーランド（大観覧車）

令和7年10月1日～10月31日（1ヶ月間）

⑤杵築城（杵築市）

令和7年10月1日～10月15日（15日間）

⑥大分三愛メディカルセンター（期間調整中）

令和7年10月8日～10月15日（8日間）

⑦大分城址公園「櫓(やぐら)」(R197号沿い)（大分市）

令和7年10月16日～10月28日（13日間）



2 乳がん検診の早期受診キャンペーン（大分県地域保健協議会・大分県の協働事業）

乳がん検診の受診を呼びかけるキャンペーンとして、デジタルサイネージを随時放映。

・大分市中央町商店街 令和7年9月22日～10月31日（40日間）

3 乳がん・乳がん検診の普及啓発動画作成（中外製薬・大分県の協働事業）

乳がんや乳がん検診への正しい知識を身につけてもらうため、「デジタル市民公開講座」として動画を作成、県HPで公開。うえお乳腺外科 久保田医師が解説している。

令和6年9月1日～令和8年8月31日（2年間）

4 SUPER GT オートポリス大会におけるピンクリボン運動の展開

（株）オートポリス、認定NPO法人ハッピーマンマ、PINK CROSS（ピンクリボン大分）と協働）

令和7年10月18日～令和7年10月19日（2日間）

①出展ブースにおける、パネル展示、触診体験コーナー設置、チラシの配布、クイズラリーの実施（参加賞の提供：健康寿命日本一おうえん企業 11社）

②グラウンドスタンド前の大型LEDモニターでのピンクリボンキャンペーン動画の放映

③公式パンフレット内での乳がんに関する普及啓発



5 大分県農林水産祭におけるピンクリボン運動の展開（大分県事業）

令和7年10月18日～10月19日（2日間）

①出展ブースにおける、パネル展示、触診体験コーナー設置、チラシの配布、クイズラリーの実施（参加賞の提供：健康寿命日本一おうえん企業 11社）

6 普及啓発ブースの設置（大分県事業）

大分県立図書館内にブースを設置し、がん検診受診・仕事との両立支援・がんサポートブック等を配布。

- ・ 場所：大分県立図書館2階 一般資料室内
- ・ 展示期間：令和7年10月1日～令和7年11月3日（34日間）
- ・ 内容：がんに関する普及啓発資料、グッズの展示及び配布



7 バス広告掲出（大分県地域保健協議会・大分県の協働事業）

がん検診受診啓発として、大分バス車外広告を実施。

令和6年10月1日～令和7年3月31日



8 アピアランスケア研修会の開催（大分県事業）

アピアランスケアについて理解を深めるとともに、がん患者の外見の変化及び心理的負担に寄り添う支援につなげるため、アピアランスケア研修会を実施。

令和7年7月26日（土）14:00～16:00

- ・対象：県内のアピアランスケアに携わる医療従事者、保健所・市町村保健師
- ・講師：目白大学看護学部看護学科 教授 野澤桂子 氏
- ・参加者数：35名



9 「おおいたのがんサポートブック」第6版および概要版の発行（大分県事業）

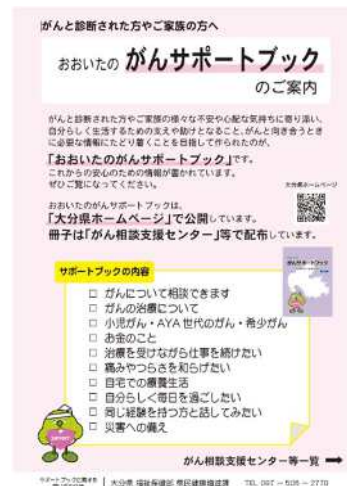
主にがん患者やその家族を対象とした「おおいたのがんサポートブック」第6版を発行。改定作業にがん相談支援センターの相談員から意見を募り、医療従事者と患者の双方にとって使いやすいものにした。また、サポートブックのことを知ってもらうために、がんサポートブックの目次とがん相談支援センターの連絡先を記載した「概要版」を新たに発行。若い世代向けに、県ホームページ上のサポートブックのページの二次元コードを記載し、簡単にアクセスできるように工夫した。

発行部数

- ・おおいたのがんサポートブック 7,400部
- ・概要版 7,500部

配布場所

がん診療連携拠点病院・協力病院、行政機関、がん登録のある医療機関等



10 トリプル健診キャンペーン（大分県事業）

健康診査、がん検診、歯科健診の3つの「健診」の受診者数増加を目的に、県の健康アプリ「あるとつく」を活用したキャンペーンを実施。

実施期間：令和7年7月15日～令和8年1月31日



ポスターのデザインは、明るい色調で、健康と検診をテーマにしたイラストが特徴です。上部には「健康診査・がん検診・歯科健診」という文字が大きく表示されています。中央には「トリプル健診キャンペーン」という大きな文字があり、その下には「電子マネー 500円 プレゼント」という情報が目立ちます。また、「抽選で5,000名様に」という文字も確認できます。ポスターの下部には、キャンペーンの応募方法や、健康診査、がん検診、歯科健診の受診率向上を促すメッセージが記載されています。右下には「大分県」のロゴと「あるとつく」アプリのQRコードが掲載されています。

健康診査・がん検診・歯科健診
トリプル健診
キャンペーン
電子マネー 500円 プレゼント
抽選で5,000名様に
トリプル受診すれば当選確率UP!!!

がん対策事業について

大分県がん患者社会参加応援事業

事業の概要

がん患者の治療と就労、社会参加等との両立を支援し、療養生活の質の向上を図るため、がん治療により脱毛した場合のウィッグや、乳房切除された場合の補整下着等の購入費を助成するもの。

助成額 購入費用の1/2（上限額 2万円）

1人につき1回限り

助成実績

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
ウィッグ	243件	331件	295件	283件	282件	122件
乳房補整具	18件	12件	11件	32件	31件	14件
バスタイムカバー	8件	10件	5件	11件	11件	3件
合 計	269件	353件	311件	326件	324件	139件

* R7.9月末時点

副作用ケア用品購入費助成について（R6.4.1～）

抗がん剤治療による副作用には様々なものがあり、脱毛が代表的であるが、その他にも外見に伴うものも多くある。そういった外見の変化によって起こる苦痛を軽減し、他人や社会と普通につながり、その人らしく過ごせるよう支援するため、副作用ケア用品の購入費を助成するもの。

助成対象副作用ケア用品（例）

<毛髪・頭皮に係る用品>

シャンプー リンス 発毛剤 育毛剤（睫毛を含む） ヘアローション ヘアトニック

<皮膚・爪に係る用品>

保湿クリーム 日焼け止め 爪用保護テープ・シート 爪用やすり

<治療時に使用する用品>

頭皮冷却キャップ

助成額 購入費用の1/2（上限額 8,000円）

1人につき1回限り

助成実績

	R6	R7
実 績	61件	19件

* R7.9月末時点

大分県小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業

事業の概要

小児・A Y A（思春期・若年成人）世代のがん等の患者が、将来に希望を持って治療に取り組めるよう、妊孕性温存療法の治療費を助成するもの。

令和 2 年度に県の単独事業として開始したが、令和 3 年度からは国庫補助事業として制度の一部見直し、令和 4 年度からは助成対象治療に温存後生殖補助医療が追加された。

妊孕性温存治療（R2.4.1～）

対象者：温存治療の凍結保存時に 43 未満の方

対象となる治療：①胚（受精卵）の凍結（3 5 万円）

及び助成上限額 ②卵子の採取・凍結（2 0 万円）

③卵巣組織の採取・凍結（4 2 万円）

④精子の採取・凍結（4 万円）

⑤手術を伴う精子の採取・凍結（3 5 万円）

助成回数：通算 2 回

生殖補助医療（R4.4.1～）

対象者：温存療法を受けた者で治療期間の初日における妻の年齢が 43 未満である夫婦

対象となる治療：①凍結した胚（受精卵）を用いた生殖補助医療（1 0 万円）

及び助成上限額 ②凍結した未受精卵子を用いた生殖補助医療（2 5 万円）

③凍結した卵巣組織再移植後の生殖補助医療（3 0 万円）

④凍結した精子を用いた生殖補助医療（3 0 万円）

助成回数：通算 6 回

※治療期間の初日における妻の年齢が 40 歳以上である場合は通算 3 回まで

※助成後、出産した場合は助成回数をリセットする

助成実績

<妊孕性温存療法>

	R2	R 3	R4	R5	R6	R7
胚（受精卵）の凍結	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件	2 件
未受精卵子凍結	5 件	3 件	6 件	0 件	2 件	4 件
精子凍結	3 件	2 件	1 件	4 件	7 件	2 件
合 計	9 件	5 件	7 件	4 件	9 件	8 件

* R7.9 月末時点

<生殖補助医療>

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
未受精卵子を用いた 生殖補助医療			0 件	1 件	1 件	0 件
精子を用いた 生殖補助医療			0 件	2 件	1 件	5 件
合 計			0 件	3 件	2 件	5 件

* R7.9 月末時点

電子申請の開始

申請者の利便性を高めるため、令和7年4月より、大分県がん患者社会参加応援事業と大分県小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業で電子申請を開始した。それに伴い、リーフレットの改定を実施し、関係機関へ配布した。

